1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2019年5月21日発行　SSKU通巻 第6439号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます！

潮騒農場（水田）で５月２日、農業隊メンバーによる田植えが行われました（３ページに記事）。農業隊は例年、大型連休ごろから鹿嶋市郊外など3か所に拡大した潮騒水田で計画的に機械による田植えを実施しています。デイケアの入寮者にも手植えでの田植え体験を企画してきましたが、今回は移動など交通問題から見送りました。機械化によって作業効率が上がったとはいえ、入寮者の増加や潮騒食堂での消費量も増え続けたためにコメの消費も激しく、今年は昨年を上回る４町５反歩（約４･５ヘクタール）の作付けとなりました。

2019
5

「最後は家族に謝りたい」の思いを実現したい

既存の施設に馴染めず居場所のなかったナオトと

新緑がまぶしい季節です。皆様お変わりありませんか？ 潮騒ジョブトレーニングセンター（JTC）のホームページ（HP）でも告知しましたが、NHKのEテレ「ハートネットTV」で高齢依存症者の抱える問題をテーマにした番組が放送されました（再放送も）。潮騒JTC関連施設の高齢者介護デイサービス「百寿」の活動を、主に高齢仲間2人の生活と家族の対応にスポットを当てて30分にわたりドキュメンタリーにしたものです。番組HPには「薬物やアルコール依存症の高齢者が暮らす介護施設が、茨城県鹿嶋市にある。入所者の多くは家族や友人と断絶し、社会で居場所を失った人たちだ。認知症を患い、生きる希望をなくした人も多い。施設のスタッフが大切にしているのが、心のケアだ。悩みを丁寧に聞き、孤独な心に向き合う。そして断絶した家族との関係づくりにも取り組む。社会で居場所を失った依存症の高齢者たちをどう支えるのか？ 施設での寄り添いの日々を見つめる」とあります。

「百寿」をつくった私も今回の放送を見て、依存症者にとって家族の問題は本当に手強く、とても重たいなあ、と改めて実感させられました。依存症は不可避に家族を巻き込む難しい病気です。しかし、芸能人らの薬物事件でセンセーショナルに報道されるように、悲しいかな世間では依然として非行や犯罪でしか見られないのが現状です。依存症は長期の自傷行為によって、その当事者が被害者と加害者を同時に演じる奇妙な犯罪なのですが、実は最大の被害者は家族です。世間体を気にして、なんとか家族でなおそうと必死に囲い込み、結果的に当事者をより悪化させる悪循環の無間地獄に追い込まれます。それだけに潮騒JTCでは早くから、当事者の回復と並行して家族の回復にも力を入れ、毎月家族会を開いて関係修復を図っています。でも、入寮者の多くは家族とは絶縁された者たちです。「自業自得」「家族の愛情でなおせ！」という理不尽な世間体の圧力によって、精神的にも経済的にも疲弊し尽くして自殺一歩手前まで追い込まれた家族も少なくありません。

それだけに曲折を経て当事者が潮騒JTCにつながった家族が、「やっと厄介払いできたと」と安堵し、当事者に「もう連絡はくれるな！」と告げて、後は“潮騒にお任せ”となることもよく分かります。私も生育環境では家族に恵まれず、自ら形成した家族を不幸にしてきた当事者の一人ですから、気持ちはとても複雑です。いくら家族に縁切りされても、人生の残り時間がわずかとなった仲間たちは「最後は故郷に戻りたい」「一目家族に謝ってから死にたい」という気持ちでは共通しています。どんなに落ちぶれ果てても、依存症回復の道を諦めずに家族への郷愁を抱き続けることは、あちこち手垢（あか）が付いてちっぽけになっても人間的な尊厳を保つ大切な要素です。この叶わない最後の願いを、私は「潮騒は家族だ！」をモットーに、仲間との絆によって異なる形であってもなんとか実現したいと考えます。今回のNHK・Eテレの放送で、そのことへの決意を強くしました。

（センター長 栗原 豊）

作付面積が4町5反歩に増えた

潮騒水田で田植え作業

今年は自然薯や長ネギ栽培にも本格的に取り組む

潮騒JTCの食を支える恒例の田植えが5月2日から始まり、鹿嶋市猿田の通称「猿田水田」では、農業隊のメンバー7人と農業班から参加した1人の計8人が同月４日、田植機２台を使いながら早苗を次々に植え付けました。猿田水田は、猿田農場がある台地から５分ほど下った谷津田に広がる水田で、この日は、4枚の水田で田植え作業が行われました。５条植えの田植機が、一面に水を張った水田で大きなエンジンのうなり音を上げながらゆっくり進むと、約15センチ前後に育ったコシヒカリの早苗が等間隔の規則正しい列を作り、水田は瞬く間に早苗で埋め尽くされました。苗が順調に生育すると、8月下旬から9月上旬ごろには稲刈りが出来る予定です。

潮騒JTCが所有する水田は、大きく分けて鹿嶋、潮来、北浦にあり、合わせた総面積は昨年より5反歩増えた約4.5町歩になりました。農業隊は4月上旬、猿田農場で昨年収穫した籾に水を含ませて発芽させた後、苗を作るマットの上に機械を使って均等に籾を蒔（ま）き、ビニールハウス内で育苗しました。昨年は約670枚のマットを用意しましたが、入寮者の増加や潮騒食堂での消費量も増え続けたために昨年収穫したコメの消費も激しく、5月一杯で在庫のコメを食べ尽くしてしまいそうな勢いとなっているため、今年は約800枚のマットを用意したとのことです。

田植えに参加した隊員たちは、くちぐちに「すがすがしくて最高の気分です」と話し、初めて作業に参加した農業班のリーチさんも「身体はきついが、天気のいい日に山の中で汗を流すのは気持ちがいい」と労働の喜びに浸るすばらしさを語ってくれました。

農業隊は今年度、試験的に栽培していた自然薯と長ネギの本格栽培に取り組むほか、シイタケやマイタケ、ナメコなどのキノコ類の栽培も手掛けており、すでにホダ木（原木）に菌を植えつけるコマ打ち作業も終了しています。シイタケは収獲までに３年間を要するようですが、マイタケとナメコは今秋の収穫が見込めるそうです。

また、第1次産業の生産者が、食品加工や流通販売にも業務展開して付加価値を生み出す第6次産業に取り組む計画も進めています。その第一歩として今年は、青パパイヤとサツマイモを加工する甘納豆作りに取り組む方針です。甘納豆業者に加工を依頼すると加工賃が高い上、業者は砂糖が浸透しすぎることを理由に上白糖を使用しませんが、無添加の上白糖を使った甘納豆は人気があるため、農業隊では消費者ニーズに合わせた上白糖を使用した甘納豆に加工し、主に東京方面で販売する計画をたてて準備を進めています。農業隊リーダーのヒトシさんは「昨年までは、その時々に応じた臨機応変の農業を続けてきましたが、今年度からは、計画的な営農経営に方針転換して安定した食料栽培をしていくので、今後はさらなる期待が持てるのではないか」と話していました。（岩）

初 デイケア・スポレク 競技大会

卓球・オセロ・囲碁・将棋 4種目で熱戦を繰り広げる

新元号の令和スタートを挟んだ、世間ではかつてない10連休という長期休暇となった今年のゴールデンウイーク（GW）でしたが、潮騒JTCではデイケア活動に参加する仲間たちが５月４日、初の試みとして室内（潮騒アディクションビレッジ会館３階多目的フロア）でのスポーツレクリーション競技大会に取り組みました。競技は日頃親しんでいる卓球・オセロ・囲碁・将棋の４種目で行われ、エントリーした選手たちが心地よい汗を流したり、頭を使ったりして、いつもの友好的な遊び感覚とは一味異なる競争意識を奮い立たせて好きなゲームに興じました。以下は、その取り組み概要に触れたデイケアのスタッフたちの感想です―。

ツカ　コーラ1本を提供するインセンティブを盛り込む

世間が10連休のGWに沸く中、入寮者が230人に及ぶ大所帯となった潮騒JTCの現状では、昨年までのように全員が車を連ねて移動し、戸外でのレクリエーション活動を企画運営するのはとても難しい。デイケアの仲間たちが少し寂しい思いをしていたところ、スタッフの一人から日頃、室内でやっているレクリエーション活動を競技大会の形式でやれないか、との提案があった。

実のところスタッフは自分がプログラムをやるにも病院送迎や福祉とのつなぎ役など日常業務で忙しいため、うまくプログラムにはまれないことがある。この問題をどうしたら解決できるか？ 私はデイケアの責任者として、そうした悩みを抱きながら、せっかくの10連休なのに半ばマンネリ化した施設生活に何かアクセントとなるものが欲しいなあ、何か気軽にできることはないかなあ、と密かに思案していた。そこに、タイミングよくスタッフ仲間の提案が寄せられたのだった。

「それはいいアイデアだ！」となり、急きょデイケア活動の拠点であるアディクションビレッジ会館３階フロアの真ん中を競技スペースにして、トーナメント形式による競技を実施。今回は勝利者にはコーラ１本を提供するというインセンティブを盛り込んだ。これが刺激となり、みんな見違えるように熱くなり、いい意味での競争心を呼び起こした。エントリーは卓球12人、オセロ６人、将棋８人、囲碁６人。メンバーはふだんボードゲーム、トランプ、人生ゲームなどをやっている。よくある大会というイメージではなく、アディクトが気軽に楽しめる要素に少しだけ競争原理を採り入れ、互いのモチベーションを高める工夫を考えたわけだ。

やってみて私は、適度な競争心が大事だと改めて悟った。できれば次につなげたい。室内レクに毛の生えた程度の取り組みだったが、これが意外に効果をもたらした。ともすると室内で無為な生活を送りがちな施設日常にあって、起伏をもたらす工夫や仕掛けは大事。少しぐらいなら熱くなる場面も必要で、まるで童心に帰ったようにみんなが競技大会に夢中になった。責任者の私には、みんなの笑顔こそが励みになり、自分の回復の糧となった。

一郎　「仲間をサポートした仲間こそが本当の優勝者だ」

最近、テレビで卓球の世界大会のニュースをよく見る。15～18歳の選手が日本代表の中心となっていることに

驚きを隠せない。もしかしたら潮騒にも隠れた代表者がいるんじゃないか？そうデイケアの責任者に話してみると、「そうか面白いね。じゃあ競技大会にしてやってみようか」の返事。そう言えば将棋でも10代の子が話題になっている。みんな知らないだけで、潮騒にもアマチュアの段を持っている仲間がいるんじゃないか？デイケアのプログラムにはほかにオセロがあり、囲碁もある。「じゃあ、これら四つの競技を組み合わせて大会を開いてみよう」。そうしてリーダーのツカさんがセンター長に直談判してくれた。すぐに「イエス」の返事。「いいね。一人でも多くの仲間がエントリーできるよう支えてあげなさい」。センター長の言葉を打ち合わせのミーティングでツカさんがそう仲間に伝えてくれた。

すぐに日時、場所が決まり、多くのエントリー者が参加してくれた。四つの競技が同時進行し、各競技の進行役が上手に進めてくれた。ミーティングを終えて午前10時30分に各競技がスタート。準決勝、決勝を午後にもっていく運営面での工夫に感心した。私自身、四つ全てにエントリーさせてもらった。自信があったのは将棋だ。決勝まで順調に進めたが、中盤になって思考する時間が長くなった。持ち時間は1分だ。焦る…、それほど決勝の相手、ドウさんは凄腕だった。90手ぐらいで投了させていただく。完敗だった。

日常を忘れ、競技に没頭できたことに感謝したい。オセロにもたくさんのエントリー者がいた。前評判の方や自信を持っている方、各ナイトで強い方々が出場した。面白いなあ、と思ったのは優勝者についてだ。その種目に自信を持っている人ではなく、また前評判の高い方でもない。ふだんおとなしく、アピールしない謙虚さを持った若いシンヤ君だった。優勝しても自慢することはしない。彼はオセロ大会に出場するに至り、密かに努力していたのだ。後から聞いた話だが、ナイトで仲間と何度も“勝負”していたそうだ。そういえば1～2時間も勝負に対して集中している、という声が私の耳にも入っていたのを思い出した。

囲碁大会では、私とヨウイチさんが勝ち上がり、決勝戦となった。でも、レベルが違った。私は中盤戦で投了してしまったが、囲碁においても本物のアマチュア七段を持った仲間がいたのだ。定石を知り、戦法を知っていた。それだけでなく碁を打つ姿勢、盤に対して礼をする姿を見た時、私は体中に電気が走った。囲碁を打つ際の作法を心得ていたのだった。

大会を振り返ってみると、たった一日だったけど面白い時間を過ごせたと思う。仲間たち一人一人に特技と秘めたる力があることを知った。一番印象に残ったのは各競技の優勝者は、決しておごらないことだ。照れがあり、何よりも謙虚だった。「大会を準備し、下支えしてくれ、エントリーした仲間をサポートしてくれた仲間こそが本当の優勝者だ！」。大会終了後、センター長が独り言のようにつぶやいた言葉が忘れられない。

勝負へのこだわりが いい意味での刺激になった

僕は潮騒JTCの多くの仲間のように薬物やアルコールなど物質依存ではなく、クレプトマニア（窃盗症）という行為そのものに対する依存症者だ。初めて犯罪に手を染めたのが中2の時。この特異な依存症が発症するのはストレスからで、お金をもっていても盗んでしまう。僕は親の虐待を受け2歳から施設暮らしを経験し、少年院にも3回行った経験がある。

潮騒JTCには今年1月下旬に入寮したのでまだ3か月余りだが、 提案を受けてスタッフ研修に出ている。潮騒のこれまでを振り返っても22歳という年齢は一番若いらしい。僕が抱える窃盗症はまだ取り扱う専門病院も少なく、自助グループも数えるほど。潮騒でもなかなかプログラムにはまれていないけど、居心地はとてもいい。実は僕が一番やりたい仕事はドッグトレーニングだ。潮騒でも犬の散歩が回復に役立つようで、犬の世話に余念がない先行く仲間がいる。できれば犬の訓練が潮騒の回復プログラムになればいいなあ、と思う。

僕はもともと運動好きで、与えられた競技には真剣勝負となるたちだ。今回の競技大会では卓球、オセロ、囲碁、将棋の全般にわたり下支え役となり、エントリーして選手としても出場した。結果についてだが、僕もみんなも楽しんでくれたようだ。もっと、こういう機会があっていい。依存症の回復にはパワーゲームから下りることが大前提だが、今回のようなレクリエーションプログラムでは適度な競争心が刺激となり、大会を盛り上げてくれる。

これらの種目はもともと趣味の時間でもやっており、特に卓球は温泉施設でもやっているように、遊びとして気軽にやれる。そこに勝負の要素を加えたので、一層盛り上がった。いつもは身銭を切って自販機で買っているコーラが、この日ばかりは勝てばもらえるというので、みんな勝負にこだわった。これが、いい意味での刺激になったようだ。次回からは「はまなすプログラム」として取り組まれるとのことなので、大いに期待している。できれば月に1、2度やれたらいい。そしてドッグトレーニングもプログラムに加えてくれるといいのになあ、と個人的に思う。

行方市内のカラオケ発表会でエイサー演舞

新メンバーも躍動し沖縄の雰囲気を醸し出す

平成から令和に元号が改正され、史上最長の10連休となったゴールデンウイークの後半に迎えた令和元年初の「子どもの日」。行方市麻生の天王崎観光交流センター「コテラス」では、春のカラオケ発表会が開催され、潮騒JTCのエイサー隊「鹿嶋琉球太鼓」のメンバー9人が、エイサーの演舞を披露してカラオケ発表会を盛り上げました。

◇　◇　◇

「あなたもスター」と題したカラオケ発表会を主催したのは、鹿行地区で地方活性化や社会福祉ボランティアなどで活躍する「水郷ミュージシャン」。同隊リーダーのヒトシさんを知る主催者からカラオケ発表会の前に行われるバラエティーショーへの出演を依頼され、出場することが決まりました。同隊が行方市のコテラスで演舞するのは初めて。ショーには行方や小美玉、潮来、鹿嶋の4市から「よさこいソーラン」のグループも出場。同隊がショーのオープニングで勇壮な踊りを披露しました。メンバーたちは午前10時の演舞開始に合わせて同日午前8時半に潮騒アディクションセンター前に集合。現地に到着すると、さっそく演舞衣装に着替えて出番を待ちました。

カラオケ発表会の会場は、霞ケ浦の湖岸に建つコテラスの湖面を見渡す庭園で行われ、ショーの司会者が開会を宣言してエイサー隊を紹介。全員がそれぞれの太鼓やパーランクなどを持ってステージに上がると大きな拍手で迎えられました。最初の演舞は、約2か月前に同隊に参加したカイトさんも参加する「ミルクムナリ」。沖縄独特の音楽が流れると、メンバーたちは太鼓やパーランクを打ち鳴らして足を跳ね上げて踊り、メンバーの1人が指笛を吹きならして沖縄の雰囲気を醸し出しました。この日は、初夏を思わせるような暑い日差しに気温もぐんぐん上昇。メンバーたちが汗もいとわず一糸乱れぬ力強い演舞を披露すると、会場から大きな拍手が送られました。演舞最後の「ダイナミック琉球」では、ルミさんがルンバの芸名で力強い歌声を披露し、演舞に華を添えました。

カイトさんは先月23日、鉾田市の特別養護老人ホーム「うぇるさんて大洋」で行われた慰問エイサーでデビューし、今回は2度目の演舞になりました。リーダーのヒトシさんは「若いので体力もあり、覚えも早い。即戦力として大いに期待している」と称賛。メンバーに加わってくれたことに感謝していました。カイトさんは「体を動かすことが大好きです。農業隊の仕事の合間に練習をしていますが、早くほかの曲の演舞にも加われるよう頑張って覚えたい」と抱負を述べていました。

ショーの後半、同隊は主催者側からアンコールの演舞を依頼され、ショーの最後に再登場して2曲を演舞。最後の曲となった「地翔」では会場にいる観客を巻き込んで沖縄踊りのカチャーシーで会場を沸かせ、ショーの最後を締めくくりました。ヒトシさんは「令和になって初めてのエイサー。暑くて大変でしたが、とても楽しめました」と話していました。（岩）

芸術家肌の個性的な入寮者、カートさん逝く

お別れ会で仲間たちが思い出を語り合い追悼

生涯にわたり重いアルコール依存症に苦しみ、晩年は病魔に侵されていた入寮者のカート（加藤眞琴）さんが４月20日、病に倒れ亡くなりました。享年69歳。同月26日には鹿嶋市内の斎場で施設葬（お別れ会）が営まれ、多くの仲間が参列してカートさんとの思い出を語り合い、焼香をして冥福を祈りました。市営火葬場で荼毘（だび）に付されたカートさんの遺骨は本来なら家族の下に帰るべきですが、彼の家族が潮騒JTCに遺骨の扱いを任せたいとの意向なので、仲間の眠る潮騒JTCの菩提寺、鹿嶋山地蔵院（真言宗豊山派）の潮騒専用墓地に収められる予定です。

カートさんは潮騒JTCでは珍しい芸術家肌の依存症者で、プライドが高く人付き合いにはやや難があったものの、絵画や詩作に非凡な才能を見せました。過去には自治体主催のコンクールに入賞したり、自ら鹿嶋市まちづくり市民センターで個展を開くなど異彩を放った入寮者でした。潮騒アディクションビレッジ会館内には詩や切り絵など彼の作品が数点飾ってあり、肉体は滅んでも彼はその作品とともに入寮者の記憶に長くとどまることでしょう。

入寮当時の聞き取り記録によれば、カートさんは千葉県市川市の出身で、芸術的センスに優れ、日本大学芸術学部に入学したものの、間もなく中途退学してサラリーマンに転身。マンション経営や不動産業など経営者として能力を開花させ、バブル景気に乗って財をなしたようです。結婚して子供も３人おり、一時は順調満帆だった事業もバブル崩壊の影響で４億円の負債を抱えたといいます。詳しい経緯は分かりませんが、アルコール依存症となり家族とも離れ、多くの仲間がそうであるように何もかも失ったようです。千葉県鎌ケ谷市の秋元病院などを経て平成24年６月に潮騒につながりました。

しかし、入寮してもカートさんは一向にアルコールが止まらず、よくペットボトルに焼酎を入れて施設内で“隠れ酒”をしていたようです。なかなか回復のレールに乗れない半面、明るく優しい側面も垣間見せて、仲間に慕われた一面もありました。彼の場合、なかなかプログラムには乗れなくても絵画や詩作など、得意の芸術表現活動に励むことで自分を支えていたようです。ともすると高齢化などで籠りがちになる施設での生活にあって、自分の得意分野の活動で生きがいを見いだすことの重要性を、身をもって示してくれました。最期は病床にありながらも「2020年のオリンピックを見るまでは死ねない」「それまでは俺の居場所は潮騒だ」と仲間に伝えていましたが、残念ながらその願いは叶いませんでした。

お別れ会で栗原センター長は「カートは回復が難しい仲間の一人だった。仲間とのトラブルが比較的多かったものの、彼の性格をのみこんでしまうと憎めない存在だった。過去には作品が市のコンクールに入賞したのに、依存症を理由に表彰式への出席を拒まれたことがあった。私が代わって表彰状を受け取ったが、あの時は依存症者に対する差別の根深さを思い知らされ、冷静な私も怒りを抑えられなかった。それでもカートは腐らずに創作に励み、その前向きな姿勢は私たちにとても参考になった。でも、アルコール依存では無力を認められないまま命を落としたのが悔やまれる。彼もまた依存症の怖さを身をもって私たちに教えてくれた」と弔辞を述べました。（潮）

しおさい Q&A 講座 第5回

12ステップ理解へのアプローチ

ステップ2
自分を超えた大きな力が、私たちを健康な心に戻してくれると信じるようになった

―前回はステップの本筋から少し離れ、依存症と脳のメカニズムについて話を伺いました。高校1年で学んだ生物の時間を思い出し、あの時に覚えた知識が約55年を経た今になって役立つとは考えもしませんでした。あらためて「何事も無駄なことはない」との思いを強くしています。さて、ステップ2の話です。行き止まりの窮地に追い込まれ、「底つき」を認めたアディクトが立ち向かう次のステージですが、どのように理解したらいいのでしょう。

ステップ2は内容的には簡単です。しかし、「底つき」をしたアディクトには理解できても、一般の人には難しいかもしれません。そこで、ステップ2の後半「私たちを健康な心に戻してくれると信じるようになった」というところから話を進め、前半の部分はその後に説明します。

―健康な心とは、「強迫観念」がない状態、あるいは「強迫観念」が起こっても対応できる心でしょうか？

ビッグブックの第1章を思い出してください。病院を退院したビルが再飲酒によって自堕落な暴飲を繰り返し、深い絶望の淵に立たされていたときに突然訪れた学生時代の友人と再会する場面です。アルコール性の精神異常で精神病院に入院していたはずの友人が断酒に成功し、別人のような輝く顔で立っていたと書いてあります。

―「奇跡が目の前にいた」とも表現していますね。

ビルは友人に何が起こったのか知りたいという好奇心にかられ、彼が体験した解決法に興味を持って耳を傾け、真剣に取り組んでみようと思うのです。

―立ち直っている友人の話を受け入れたのですね。

そうです。友人が話した行動のプログラム、つまり12ステップを実践すれば依存症の本質である「強迫観念」に対処できると信じる以外に方法はなかったのです。

―アルコールなら最初の1杯、ギャンブルならば最初の賭け事、そして薬物に再び手を出してしまうのは、精神の問題に起因する「強迫観念」によるものでしたね。

これが克服できれば問題は起こりません。ビルは自分も友人のように正常な心を取り戻し、新しい人生のスタート地点に立てるかもしれないと確信するのです。

―では、前半の「自分を超えた大きな力」とは？

ステップ2について具体的に書かれているのは、第2章から第4章です。第2章では主に依存症の解決法が述べられており、第3章では強迫観念の具体例を挙げ、ページの最後には強迫観念を抑える力がハイヤーパワーだと断定しています。第4章はハイヤーパワーについて記述されています。

―ビルが友人の勧めるプログラムの実践にためらいを抱いたのは「信仰を持った」という彼の最初の言葉でしたね。

信仰というと誰もが躊躇(ちゅうちょ)するかもしれません。しかし、ここに出てくる信仰とは、既存の宗教や新興の宗教ではありません。彼の言う信仰とは、12ステップの実践によって回復することを信じ、自分は変わるという決心をして12ステップを実行することによって大きな力がもたらされ、今まで出来なかったことができるようになり、新しい人生を歩めると信心することです。友人は自分の意思ではコントロールできなかった「強迫観念」を克服できたという事実を突きつけたのです。無力だった友人を変えたのは、まさしく信仰によるもの以外に説明がつきません。目に見えない大きな力、これがハイヤーパワーなのです。

―その後、ビルは同じ悩みを抱えるアルコホーリクたちの通う病院でステップの普及活動に没頭しますね。

ビルを飲酒問題の窮地から救い出した友人は、オックスフォード・グループというアルコホーリクの支援もする共同体で断酒を継続していました。ビルもこのグループに加わり、同じ問題を抱える人たちに12ステップのメッセージを届ける活動を続けます。ビルはアルコホーリクを助けられるのはアルコホーリクしかいないという信念を持って普及活動にあたりましたが、実はビル自身の回復を永続させるためでもあったのです。お互いを支え合いながらステップに取り組んでいくことが共通の解決策にもなり、それがハイヤーパワーの一つになっていくのです。

（解説 ＝ 藤田良・潮騒JTC生活支援員、次号に続く）

見てくれより本当においしいものを作りたい

潮騒農業に新たな「助っ人」が加わる
行方市でエコ農業を実践する松信昌栄さん

依存症者の就労支援を掲げ、素人農業ながらも試行錯誤と自助努力で地域に活動範囲を広げる潮騒農業に、このほど新たな「助っ人」が加わりました。行方市で手広く有機農業を実践する「まつのぶ農園」代表、松信昌栄さん（64）です。長く役所勤めをした後、実家の農業を継承して9年余り。温和な人柄で地域の信頼も厚く「安全で安心な農産物を消費者に届けたい」として従来の農業から脱皮し、創意工夫と研究熱心な姿勢で独自のエコ農業を志向しています。松信さんのチャレンジ精神は、このところ停滞気味の潮騒農業に新鮮な刺激となっているようです。農業隊メンバーにも学ぶべき点が多く、当事者活動の潮騒農業に厚みが加わりました。

◇　◇　◇

「まだ農業は９年目。農学校を出たわけでも、専門の農業研修を受けたわけでもない。素人農業そのもので、いわば私はパソコンが先生みたいのようなもの。人と違う農業をやろうという意欲が支えだった」。そう話す松信さんは行方市役所を55歳で早期退職し、高齢となった専業農家の両親に代わり自分が主役となって、苦労の末にエコ農業で活路を開いた人です。今では志を同じくする地元のエコ農業者と組合をつくり、安全・安心な農産物を求める消費者に支持され、生協からも信頼を得ています。息子さんも後継者として加わり、組合青年部で活動するなど一家でエコ農業に励んでいます。長ネギを主力にサトイモやモロヘイヤなど多品種の野菜づくりと、コメづくりも手掛けています。

役所時代は“日曜百姓”で親の農業を手伝ってきた松信さんですが、かつては主力だったコメづくりが落ち込むなど曲がり角に差し掛かり、地元で盛んだった施設園芸農業が収量を上げるために“農薬漬け”の流れになっていることには疑問が膨らんでいました。市場からは見てくれのいい、均一化した農産物ばかりが求められますが、そうするには農薬を数多く使わざるを得ません。自然に根差し自然の恵みであるはずの農業がそれでいいのか？

そこから独自のあり方を模索して堆肥づくりや土づくりに励み、害虫対策と除草作業に追われながらも人一倍研究熱心な松信さんは、長ネギ栽培を主力にしたエコ農業で活路を見いだしました。一般のネギ農家が30回使う農薬を徐々に減らし、ついにはゼロに。当然ながら収量は下がりましたが、消費者から信頼されるブランド力ある長ネギ生産農家として、消費者に高い信頼を得ており、地域でも一目置かれています。

昨年秋ごろから縁あって支援者を介して潮騒JTCとの付き合いが始まり、まずは自然薯づくりで農業隊にヒントを与えてくれました。「依存症？よく知らないけど、うちに手伝いに来るメンバーはみんな素直でよくやってくれるよ」「私の関わり方は自分のやり方を押し付けるのではなく、一緒に勉強していこうということ。周囲からの助言でメンバーが混乱しないように配慮したい」。その謙虚さこそ依存症の回復に通じるもので、人間性においても松信さんは貴重な助言者となりそうです。

その上で「昔気質の農業もいいが、私が目指すのは見てくれよりも自分が食べておいしいもの、安全で安心なものをつくる農業。ひいてはそれが健康な毎日の暮らしにつながる。その願いは生産者も消費者もみんな同じでしょう」と語る松信さん。見よう見まねでここまで来た潮騒農業ですが、チャレンジ精神あふれる新たな助言＆協力者の登場でステップアップが期待されます。（潮）

受刑者からの手紙

残刑期も２カ月余りなので頑張るしかないと思う

先日、潮騒通信とお手紙が届きましたが、お忙しいところ毎月有難う御座いました。私も先頃に本面接が入り、気持ち的に楽になりました。仮釈放で出所する前に、釈前教育が約２週間ありますが、私の場合があと３回となり、今月は２回、来月は上旬に１回の予定で、それが過ぎてしまいますと満期出所が確定となってしまいます。色々と悔しい思いはありますが、残刑期も２カ月余りなので頑張るしかないと思っています。前回の手紙でミニ運動会があることは御存知だと思いますが、先日３回戦が行われたのが、二対一で敗れてしまい、悔しいですが最後に楽しくできたのでよかったと思っております。潮騒通信でイベントの確認をしましたが、４月６日に運動会が行われるとのことですが、どんな種目があるのか分かりませんが、私も出席できればいいのですが、今年はちょっと難しいのではないかと感じておりますので、来年まで楽しみにしておきたいと考えています。

（新潟県　H・K）

潮騒の取り組みを分かってもらうには政治家の力も必要に

前略、センター長、シゲさん、お元気ですか。３月７日に潮騒通信２月号が届きました。ありがとうございます。２月号の頭に政治家に陳情した事がのっていましたが、難しい事はわかりませんし、陳情なんて言葉を使ったことがありません。潮騒が取り組んでいる活動やメッセージ、回復プログラム、セミナー、自助グループ等、行政、メディアに分かってもらうには政治家の力が必要なのでしょうね。

私は自分自身の回復がまず先ですから、自分の依存を克服できればそれでいいのですけどね。３月に入り網走もだいぶ暖かくなり過ごしやすくなりました。私は現状、工場で仕事に夢中になる事ができるので嬉しく、元気でやらせてもらっていますので、センター長、シゲさん、くれぐれも風邪など引かず、元気で過ごして下さい。風邪を引かないコツは ①うがい ②手洗い ③気合い、だそうですよ。それで、特に３番目の気合いとは、絶対に風邪など引くものか、という強い気持ちが大事だそうです。工場の担当さんが皆に教えてくれました。そんな感じです。それではお元気で。また、手紙書きます。

（北海道　O・M）

早く毎月発行の「どっこい生きてます！」を読みたい

久しぶりの手紙です。この度、拘置所から当地刑務所に移送されました。以前から引き受けの方を承諾して頂いている事から、今回は絶対に仮釈放で出所するという気持ちが強くあり、こちらに入所してからも栗原さんの所（潮騒ジョブトレーニングセンター）できちんとプログラムを受けようと思いますので、引受人として申請しましたので、この先保護観察所等からも調査があるかと思いますが、宜しくお願い致します。

当地も、日ごとに暖かくなってきているところです。私も今度で6回目の懲役と、懲りないところではあるのですが…。ずっと薬物での服役ですので、ここで真剣に断つことを考えます。色々とこの先、考えなければならない事が多くありますが、栗原さんや周りの方々の経験談をもとに、これからの自分の在り方を描いてみようと思います。刑務所でもプログラムを受けます。センターの皆さんも元気で頑張っていることと思います。早く毎月発行の「どっこい生きてます！」を読みたいです。早く仮釈放をもらって出所するためにも、これから始まる日々の受刑生活を大事に、事故のないように生活しようと思っています。

（北海道　W・H）

半世紀以上前、学生運動が盛んだった時代は、思想犯には獄中が学習の場でした。でも所詮は学生、いくら理論武装しても孤独を克服するのは難しく、獄中転向者が多かったのも事実です。それほど孤独は辛く、受刑者の皆さんの思いがよく分かります。（潮）

高卒認定ワークブックの問題はスラスラ解けて面白い

前略、手紙と本が３冊届きました。ありがとうございます。先日届いたシゲさんの手紙に書いてあった言葉に「継続は力なり」とありましたが、まさにその通りだと私自身も実感致しました。中にいると、本当にいいことなんて全然なく、毎日が嫌になる時もありますが、しかし、どんなことがあっても、刑を終えるまでここから逃げ出すことはできず、毎日がどんな日だろうと務めなければならない。どうせ同じ一日を務めるのなら、自分自身のために、嫌でも毎日真面目に生活を行っていった方がいいに決まっています。

中での生活は、自分の自由な時間なんて本当に少なく限られていますが、その限られた自由な時間を少しでも有意義に使っていこうと努力しています。今は少し前より、夜間独居という昼工場で働き、夜は１人での生活をして過ごしているため、自由な時間がある時は学力をつけるために高卒認定ワークブックを官本で借りて勉強をしたり、小説を読んで生活をしています。ワークブックの問題は結構スラスラと解けていくのでとても面白く、今のところ、日本史、世界史、英語の3科目を勉強しましたが、全部で9科目あるので、自由な時間を使い、全科目を勉強していこうと決めています。

それとこのほど６カ月無事故で退類したため、毎月１回だけ自費400円を出してお菓子とジュースを飲み食いできるようになったので、そのことを含め今の生活をずっと続けていけるように気を付けていきます。私の刑は大分長いので、早く外に出たいなと思うことが多いですが、すべて自分自身の為に全て我慢し、頑張っていきたいと思います。

栗原さんの生活する茨城はもうだいぶ暖かくなったと思いますが、北海道に本格的に春がくるのはたぶん5月頃だと思いますが、春が来て外の雪がとけてくれれば、また外で運動もできるようになるので、外に出て運動できるようになれば気分も変わってくると思うので、そういった事とか楽しみに毎日を過ごしていきます。栗原さん、外は毎日忙しいと思いますが、くれぐれも体調を崩すことなく、元気に毎日を送って下さい。今日の手紙はこの辺で。　（北海道　K・K）

今回はカタギとして務めるのだからと思いできるだけ我慢する

今年は全体的に春の訪れが早いようで、北海道の東部でも雪が溶けはじめています。それでも日によっては気温もマイナスになるし、雪もチラッと降るので、まだあと少しの間は寒い日もありそうです。相変わらずの受刑生活を送っている私ですが、満期まで約半年になっても委員面接がないので、この分だと仮釈をもらえたとしても出所できるのは満期日の１カ月前くらい、たぶん真夏になるのでは…と少々がっかりしています。工場での対人関係、作業に対するモチベーションも途切れがちです。塀の中で担当職員に不平不満を言っても、自分が不利な状況になるだけで何の解決にもならないことはこれまでの経験で十分わかっているので、バカなやつがいても極力無視するようにして、他の者とも一切余計な話をせずに黙々と日々を送っているのです。

これまでの受刑生活では満期出所が当たり前の身分でしたので、たとえ塀の中でも言うべきことははっきりと言い、良い悪いもはっきりと主張してきました。たとえそれが担当職員であっても私は自らの主張を通してきました。こと相手が同じ受刑者であったのならば、相手が悪く間違ったことを言ったりやったりしていた時にはトコトン詰めていたので、よく懲罰になっていました。今回の受刑ではカタギとして務めるのだからと思い、できるだけ我慢するようにして、自己主張もなるべくせずにおとなしく生活しています。（北海道　T・W）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

しおさい俳壇

５月のお題　つつじ

選者 桐本石見

人生は60歳からでもやり直せる！ No.64

センター長 栗原 豊

苦しかった過去の刑務所経験が生きるダルクをつくりたい

運命的な導きで鹿島ダルクにつながった私が、入寮して３年に満たない時期に「自分のダルクを持ちたい」という熱い思いを抱くようになった。個人差はあるとしても、独立には最低３年ぐらいのダルク経験と実績が求められるというのが、当時もそして今も、ダルク内では暗黙の了解事項なのではあるまいか。「石の上にも３年」ではないが、スタッフ研修を経て寮長や施設長代理など責任ある役職をいくつか経験し、仲間の信頼が高まり、仕事を覚えて施設全体を見渡せるまでは、やはり概ね３年ぐらいの経験が求められた。

その意味で、当時の私はダルクでの経験が不足していた。ただ、最年長だったことも手伝って、鹿島ダルクで同じ釜の飯を食う仲間たちの、私への信頼は日増しに強くなっていたことは肌で感じていた。獄中通算20年だけに、社会経験は未熟でも曲りなりに60年も生きてきたことは無駄ではなく、若い仲間たちに適切なアドバイスを与えられたし、施設の責任者に代わって仲間たちから意見や判断を求められることもしばしばだった。

そうした依存症の入寮者仲間からの熱い信頼とは別に、60歳でダルクにつながった私にはかつて同じ刑務所内で生活を共にした、クスリに溺れて下獄した同囚の面々や、地元の埼玉県内で薬物依存を「病気」と分からずに今も無間地獄に溺れているヤクザ仲間への郷愁も強かった。「できることなら自分の施設を持って、そこで彼らを救いたい」「刑務所経験者向けのダルクが一つぐらいあっていいだろう」と。そんな思いが日々募っていくのを実感していた。私自身もそうだったが、一般に受刑者は厳しい規則に縛られた拘禁生活によって他律的な生活習慣が形成され、ダルクにつながっても依存症の回復をより難しくしている現実がある。自分の頭で考え、判断することを放棄し、すっかり指示待ち人間と化している。ささいなことでもいちいちお伺いを立てる。物質への依存だけでなく人関関係への依存傾向が強くなり、それに少しも疑問を抱かない。これでは生活自立はもとより社会復帰などとてもおぼつかない。７度の受刑体験を持つ私の中に「苦しかった過去の刑務所経験が直接生きるダルクをつくりたい」という思いが日増しに強くなっていた。その熱い思いが頂点に達するのに、それほど時間はかからなかった。（次号に続く）

佳作

我が庭に赤白と咲くつつじかな	ヒロ
そよぐ風つつじヶ丘に匂ひ立つ	コバ
花束に欲しいと思ふつつじかな	あべ
つつじ花見てる親子の笑顔かな	ヨイチ
浅間山どうだんつつじさわやかに	オノ
見上げたる山々染めるつつじかな	しま
かすかにも染めて遠きにつつじ山	れいこ
晴渡る今朝の公園花つつじ	くみ
花つつじ長き休みに咲き満ちよ	レモン
花つつじピンク模様に咲き満ちぬ	なん
可愛くて蜜も美味しいつつじかな	あきら
散歩道つつじの花のお出迎え	あさ
晴天に甘き香りのつつじかな	いるか
つつじ咲き庭美しく晴にけり	メーテル
一面に咲き満つ今朝のつつじかな	チャコ
五月花匂へる山に君と逢ふ	一郎
鯉幟谷に列なす定山峡	ゆたか

特選句

袋田の滝の奥なる山つつじ

みく

袋田の滝は茨城県大子町にあり、高さ百二十、幅七十三メートルで、凍結も名高く日本三名瀑の一つ。昔に西行法師が四季に尋ねて、この滝の趣が味わえると言われたので四度の滝とも言う。滝の吊橋の奥はハイキングコースで、月居山、光明寺観音堂、生瀬滝などあり、白い瀑布を見て赤い山躑躅（やまつつじ）の道も楽しい旅の句です。

特選句

通学路つつじの蜜吸ひみな笑顔

めい

いまでは少ないが戦後の頃つつじの花を採って蜜を吸った、それが下校時の楽しみの一つで、それほど菓子など無い貧窮の時代でもあった。だだし、蓮華つつじや黄色のつつじは毒があるので要注意。他にも、椿、百合なども蜜がある、子の日が懐かしい句です。

特選句

網走の獄を赦され白躑躅

ゆたか

網走刑務所は明治二十三年頃に開設され、千三百余名が服役し北海道開発など苦役にも従事した。映画の網走番外地や幾多の脱獄でも名高い。今では近代化されたが、昔は恐怖の獄舎でもあった。何かの刑を終えたのか、網走川の空も晴れて白の躑躅の様に心も清々しい思いの句です。

秀逸句

今月の秀逸句

つつじ咲くト伝公園ウオーキング

ヒロ

ト伝公園は鹿島サッカースタジアムの近くにある多目的運動公園で、躑躅の咲く頃の散歩も清々しい。また塚原ト伝は一四八九年鹿島四家老の一人吉川覚賢の次男として生れ、八十三歳で歿。その間足利将軍家や山本勘助に指南したとも、宮本武蔵との鍋蓋受けも名高い。墓は鹿嶋市沼尾にある。その歴史をも偲ぶ散歩の句。

見渡せば眼下につつじ筑波山

アベ

筑波山は標高八七七メートルの男体女体山かなる関東の名山で、古来から歌会の山としても名高い。躑躅は三千株もあると言われ、ケーブルカーで昇る途中の眼下の躑躅も美しい旅の句です。

沿道の柵にこぼるるつつじかな

マコ

家の近くか或いは旅の道か、その道の柵を溢れるほど躑躅が咲いて美しい。躑躅は山にも咲くが公園や沿道にも柵の代りにも植えられる。躑躅は山躑躅、杜鵑花（さつき）、シャクナゲ、馬酔木（あしび）も同じ仲間で、赤や白など千四種もあると言われる。簡素ながら実景の句です。

笠間路の晴や躑躅の咲き競ふ

オノ

笠間市は陶器や笠間稲荷も名高いが、八千五百株の躑躅も名高く山の斜面に咲くのは荘厳な景でもあります。因みに五十年前一株運動から始まったとも。私も何度か尋ねて懐かしい句です。

五月空昭和も旧き世となりぬ

ゆたか

五月一日年号は令和になった、万葉集の梅の歌三十二首の序文の「初春の令月にして気淑（よ）く風和（やわら）ぎ…」からと言う。平成の時は昭和も隣りの思いだが、年号を重ねると昭和も古くなった思いがします。人夫々にその時代に生きた感慨を偲びながら次の時代に思いをはせる、五月の晴天も広々と令和に相応しい句です。

愛を説く獄舎の碑文赤躑躅

ゆたか

網走刑務所に「私の手は厳しいけれど私の心は愛に満ちている」の碑文がある。これはオランダ・アムステルダム刑務所の門扉にある文を和訳したのだと言う。厳しく罪は償って貰うが、心に愛をもって指導する意味だと言う。スポーツや仕事でも厳しいと問題にもなりますが、真に愛情からなら耐え励みにもなります。赤い躑躅も情熱の思いの句です。

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～　「アル中のシゲ」の巻　第11回

何百匹ものネズミに襲われることから私の幻覚が始まった

季節は夏、酒量が増えるのにつれ、私の幻聴はますますエスカレートする。自宅替わりのホテルでビールを飲み、間髪を入れずに近くの児童公園に行ってはコンビニで買った酒をベンチで飲む日々が続く。ふと耳を澄ますと鈴虫の鳴き声が聞こえ、その鈴虫がいつの間にかしゃべっている。「お前は死ね！死ね！死ね！」と。空を見上げると飛行機からも「お前を殺す！殺す！殺す！」の声。誰かがマイクを使い叫んでいる。私は公園で狂った状態でのたうち回る。でも、恐ろしい幻聴は止まらない。フラフラの状態でホテルに戻る際にもコンビニで酒を買っている。近くにいた犬が私に向かって激しく吠える。「お前を殺す！殺す！殺す！」…、そんなバカな、犬が話せるはずがないじゃないか。しかし、私には聞こえる。狂人化している私には…。

ホテルに戻った私は性懲りもなく、また酒を飲む。すると部屋の天井にある蛍光灯からレーザー光線が走り、灰皿の吸い殻にあたり、吸い殻に火が付いた。あわてて、グラスの中の酒を灰皿にばらまく。ふと、後ろを向くとテレビの上で、3人の小人の女性がニコニコ笑ってフラダンスを踊っている。つられて私もニコニコしながら酒をあおる。その後ベッドに横になる。ふと窓ガラスを見ると透明のガラスが曇っており、そこに文字が書かれている。「お前を殺す！殺す！殺す！」…あの脅迫文字だ。（次号に続く）

☆谷田川様からトヨタのライトバン「サクシード」を献品頂く☆

NPO法人・潮騒JTC理事で「幸友住宅」（株）社長の谷田川茂徳様からこのほど、ライトバン型の普通乗用車1台を献品して頂きました。入寮者の増加で施設職員が日常業務に使用する施設車が不足していることから、潮騒JTCにとって朗報です。谷田川様からの車の献品は2回目で毎回、施設の窮状にご理解を頂き、有難い限りです。献品車はステーションワゴンとして人気の高いトヨタの「サクシード」です。入寮者の移動や病院送迎などはもちろん、後ろに荷物が積めるので幅広い使い道が可能です。栗原センター長は「高齢の入寮者が増えている中、潮騒の活動に深い理解を示す理事の谷田川さんからの温かい支援には毎回、感謝しかありません。手入れよく乗られていたので、潮騒でも大切に乗らせて頂きます」とお礼を述べていました。

5月のバースデイ

マサヒロ

どうも
ありがとう！

イケ

現状維持

アサヒ

嫁、募集中

エビケン

感謝

オザキ

麻雀命

イチ

僕がイチです。

シンヤ

今日一日

ヤナ

ZZZ

長吉

天気予報命

5月の行事

5月5日　行方市麻生のコテラスでエイサー演舞
5月8日　水戸保護観察所スマープ講習
5月9日　潮騒俳句会
5月10日　潮騒プロジェクト会議
5月15日　NHK・Eテレで百寿を放送
5月14日　潮騒VS百寿ソフトボール交流試合
5月12・18日　秋元病院メッセージ
5月18・19日　仙台市内の福祉施設にエイサー慰問
5月20日　茨城放送夕方ニュースで潮騒を報道
5月23日　ブー横町（美空野）保育園エイサー演舞
5月26日　NPO法人・潮騒JTC定期理事会＆総会

6月の行事予定

6月6日　潮騒俳句会
6月7日　潮騒プロジェクト会議
6月9・15日　秋元病院メッセージ
6月23日　潮騒家族会
6月30日　行方で千葉ダルクとの合同エイサー演舞

※ 6月上旬に潮騒フラワーロードに花植え作業

献金・献品を頂いた方（5月15日現在）

・社会福祉法人 北区社会福祉協議会
クラブレインボー 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

本号の栗原センター長の随想（巻頭言）でも触れているように、依存症はほぼ例外なく家族を巻き込む病気でもある。では、家族とは何だろう。世には数多くの家族論がある。国家や社会とも個人とも位相を異にする、男女の性を基盤とする関係の磁場だと僕は考える ▼かつては家族をテーマとした小説やテレビでホームドラマが流行った。仕事でのトラブルや外での人間関係で行き詰まっても、家族は決まって温かく迎え入れる癒しの空間だった。そこには親子の情愛が溢れており、健全で安定した暮らしの源泉だったように思う ▼威厳ある大黒柱の父親と優しい母親を中心に、時には横ブレして親子・兄弟げんかをするが、みんなで食卓を囲むころにはアットホームな雰囲気に満ちている。家族にはそんな魔法の修復力がある。それがホームドラマでは定番の場面だった。今でもアニメ番組「サザエさん」は、そんな古きよき家族に支えられている。一貫して非行や犯罪とは無縁なのだ ▼それが時代の変化で大きく変わった。核家族化で独り部屋が当たり前となり、家の中に引き籠れる空間が生まれ、これが依存症を育てる格好の条件となった。一方で、世間は相変わらず家族に健全化を求め、無意識な縛りと同調圧力を掛け続ける ▼するとますます家族は孤立し追い込まれ、どこにも相談や助けを求めることができずに、家族内で依存症を肥大化させる。やがて家族がお手上げとなって限界に達すると、ついに警察沙汰となり、今度は病院や刑務所との往復生活となる。ここで回復施設につながれば、なんとか命をつなぐことができる ▼家族機能の崩壊は依存症だけでなく、多様な家族事件にも見てとれる。子供への虐待、妻へのDV、親殺し・子殺し、一家心中、老老介護自殺・殺人事件…など枚挙にいとまがない。もはや家族は手放しで安心安全できる居場所ではなくなった。でも、いくら家族に見捨てられても潮騒の仲間たちの家族への郷愁は消えることはない ▼潮騒やダルクは頑張って家族や社会に代わる新たなコミュニティー機能を創出してきたが、やはり日本人の情緒に支えられた家族イメージは理屈では割り切れない世界だ。事実、依存症の回復には「ほどほどの距離感」を維持できれば、一度は壊れた家族の機能も修復される。家族は万能でなく手強いけれど、向き合い方次第では「救い」につながる。家族への希望は捨てたくない。（市）

潮騒通信 どっこい生きてます！ 2019年5月

Contents

P2 「最後は家族に謝りたい」の思いを実現したい
P3 作付面積が4町5反歩に増えた 潮騒水田で田植え作業
P4 デイケア・スポレク 競技大会
P6 行方市内のカラオケ発表会でエイサー演舞
P7 芸術家肌の個性的な入寮者、カートさん逝く
P8 しおさい Q&A 講座［12ステップ理解へのアプローチ］第5回 ステップ2「自分を超えた大きな力が、私たちを健康な心に戻してくれると信じるようになった」
P9 潮騒農業に新たな「助っ人」が加わる 行方市でエコ農業を実践する松信昌栄さん
P10 受刑者からの手紙
P12 しおさい俳壇　5月のお題「つつじ」
P14 どっこい私も生きてます「アル中のシゲ回復記」／5月のバースデイ
P15 行事予定 ／ 編集後記 ／ 献金・献品 ／ 目次

■ 編集・発行：

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
（潮騒アディクション・ケアセンター）
〒314−0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ http://shiosaidarc.com/

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2019年5月21日発行　SSKU通巻 第6439号

しおさい農業自然隊

お米を
粗末に
しないでね。

発行所　〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2019年5月21日発行　SSKU 通巻 第6439号